

目からウロコの 「ゼロ金利」の 投資観

角川 総一氏

事実上のゼロ金利時代には資産の運用だけを考へるのではなく、意識的に負債のコントロールを行うことが有効である場合が少なくありません。私たちは一般に資産勘定だけを持つわけではないからです。わが国の家計全体では千五百兆円の金融資産に対して三百八十兆円程度の負債を抱えています。

資産運用の目的は「余裕資金を豊富に持つこと」であるとともに「負債を控除した正味の資産を増やすこと」であるはずですが、後者の立場からみたものが、いわゆるバランスシ

の繰り上げ返済などです。たとえば年利三%の住宅ローンを百万円まとめて返済することは、百万円を三%で運用したとに等しいのです。

「多くの家計では負債を抱えているはず」と記しましたが、これに抵抗感をもたれた方もいるだろうと思います。多分「バランスシートを作成すると我が家には負債として計上されるものはない」と。しかし、ここで言う「負債」は広義の意味で

ゼロ金利時代の資産運用 ②

負債・資産の総合管理を

「負債を圧縮することによってバランスシートを改善できます。左の資産の部のうちの流動性資産（金融資産はほとんどこ

にお考えください。あなたが生命保険や国民年金制度に加入し、あるいはNHKを受信しているなら、それは将来に

わが国家計部門のバランスシート (2006年末)

資産の部		負債・資本の部	
金融資産 (1572) (=流動性資産)		負債 (385)	
非金融資産 (1003) (=固定資産)		資本 (2190)	

(出所)内閣府SNA統計 単位:兆円
(注)家計には個人企業を含む

こに入る)で高い収益性が期待できないときに、負債を減らすことにより資本(正味の財産)を増やすことが可能なのです。現実的に言えば、住宅ローン

果があります。あるいは、個人契約の生命保険を月払いから一年前納扱いにすると、月額一万円×十二カ月＝十二万円の支払いが千百一十二万円程度に相当するのです。

ただし、計算上は正味の資産が増えたとしても、すぐに使えるキャッシュが不如意になることは避けなければなりません。